

2016 年度「研究者の横顔」 小島 研介先生

1. 研究者になろうとしたきっかけ

血液内科医として、長くがん診療に関わってきました。現在の抗がん剤治療では治せない数多くの患者さんを診てきた経験から、基礎と臨床とを結びつけるトランスレーション研究によって、新しいがん治療を開発できればと思い、医師研究者を目指しました。

2. 助成研究の内容紹介

急性骨髄性白血病はこの 40 年間治療法の進歩は乏しく、副作用の強い抗がん剤点滴治療に頼っており、それでも治癒が得られるとは限らないのが現状です。私は p53 というがん抑制遺伝子に注目し、がん異常を標的とした新たな治療の開発研究を行います。

3. 2 の将来に繋がる結果予想・目標

正常のからだの細胞に傷害を及ぼすことによる副作用や再発、別のがんの発症を避けながら、治療が効かなくなる前に白血病を根絶することを目標としています。

4. 全国の RFL 関係者に一言

研究の御支援に深謝いたしますとともに、身の引きしまる思いです。努力いたします。